

13 当院における IPMN 切除症例の検討

鈴木 晋・青野 高志・金子 和弘
佐藤 友威・岡田 貴幸・武藤 一朗
長谷川正樹

県立中央病院外科

【目的】当院における IPMN 切除例の治療成績を検討し、手術適応について考察する。

【対象と方法】2002年から2011年までに IPMN に対し切除を行った20例を対象とした。手術適応は主膵管型では全例、分枝型では嚢胞径30mm以上、主膵管拡張を伴うもの、壁在結節の存在するものとした。

【結果】男性14例、女性6例で平均年齢は70.4歳。病理組織学的には浸潤癌2例、非浸潤癌5例、腺腫13例であった。手術術式はPPPD8例、SSPPD3例、PD2例、DP7例であった。主膵管型は6例で、そのうち悪性であったものが3例(50%)、分枝型は14例で、うち悪性であったものは4例(29%)であった。残膵再発は主膵管型・浸潤癌に1例、分枝型・非浸潤癌に1例認め、それぞれ膵尾部切除、残膵全摘施行した。他臓器癌の合併を同時性、異時性あわせて11例(同時性3例、異時性8例)と高率に認めた。全症例の5生率は88.4%であり、主膵管型の5生率は83.3%、分枝膵管型の5生率は92.3%であった。

14 当科における膵管内乳頭粘液性腫瘍切除例の検討

北見 智恵・河内 保之・西村 淳
牧野 成人・川原聖佳子・新岡 恵也

厚生連長岡中央総合病院外科

2000年10月から2012年7月までに当科で切除されたIPMNは11例、IPMN由来浸潤癌は2例であった。IPMNは男性7例・女性4例、年齢は61-82歳(中央値70歳)で、IPMAが6例、IPMCが5例、腫瘍の存在部位は膵頭部5例、膵体尾部6例であった。5年生存例は1例で、他病死が3例、他は無再発生存であった。IPMN由来

浸潤癌は女性2例、年齢は67歳、72歳で腫瘍の存在部位は2例とも膵頭部であった。術後観察期間は4年2ヵ月、2年5ヵ月で2例とも無再発生存中である。他臓器癌を3例(21%)に認め、1例は胆管癌との同時性癌であった。

15 IPMN の手術適応と予後

上屋 嘉昭・野村 達也・梨本 篤
藪崎 裕・瀧井 康公・中川 悟
丸山 聡・松本 淳・本間 慶一*
川崎 隆*

県立がんセンター外科
同 病理*

16 当科における IPMN の外科的治療とその成績

皆川 昌広・黒崎 功・高野 可赴
滝沢 一泰・森本 悠太・仲野 哲矢
高山 勝義

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

【はじめに】膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)における治療は外科的切除が基本となる。今回、我々のグループにおけるIPMN手術症例についてまとめ、これを報告する。

【対象】2006年～2011年まで当科にて手術されたIPMN症例22例。病理診断にてIPMAと診断されたA群11例とIPMCおよび通常型膵癌合併と診断されたC群11例にわけ、比較検討をおこなった。

【結果】患者背景因子では年齢、性別、糖尿病、有症状、腫瘍マーカーに差はなかった。腫瘍のタイプ(分枝型/主膵管型/混合型)、最大嚢胞径、主膵管径に有意差はなかった。壁在結節の有無にて有意な差をみとめた(A群1例9%、C群において10例91%、 $P < 0.001$)。縮小手術を適応した症例はA群4例、C群1例であった。リンパ節転移あるいは播種を認めたものは、C群の通常型